

らしいが、ポンプ小屋は見えなかった。昨日のガケの最終地点に戻り、その後、不明瞭な比高1～2mぐらいのガケを田畑の中からさがしだす作業を続ける。根気のいる仕事である。一枚の地形面図を完成させるのに、こんなに時間をかけるとは知らなかった。ちょうど収穫期なので、ハーベスター、脱穀機、もみすり機(?)などの作業が見られた。稲の干し方がはざ、棒ぐい利用と一定していないのは、開拓地のためだろうか。那須第二分水(品川堀)を見る。水田面より低く流れが早い。もっと下流に水を供給しているらしい。典型的な農村の商店(よろず屋)が時々ある。

15:00頃黒羽街道に至る。ガケの追跡が完了したことがうれしい。川上ほど比高が低くなっている。

13日 10日の最終地点のあたりから中山を通して城山まで、城山で景観を見る予定。平林の坂は親園面と低位面の境らしい。低位面の一段高いところに加温式のビニールハウスがありキュウリを収穫していた。現在は加温していないが、この収穫後、トマトの栽培に利用するそうだ。中山に抜ける那須野面は山林になっている。樹種は混合林。シイタケの栽培をしていた。先日道をまちがえた場所を確認。途中、葉トウガラシの塩漬を作っていた。佃煮にするためだそうだ。那須野はトウガラシの産地なのだそうだ。

城山の見晴し台からは、金丸原面の開田された様子がよくわかる。農家は防風林に囲まれ散村的だが、市街地は密集している。城山を降り、旧陸羽街道を歩く。現在は人通も少ないが、家並は他より立派な気がした。道が鉤型に曲っているのは敵の来襲に備えてのことだそうだ。大田原の城下町としての一面をのぞいたような気がした。

この巡検で私達は始めて、地域をていねいに調べることを習った。細かい見のがしそうなことで、微細地誌においては大切なことがあるのだ。地形面図の作成にかかる手間等、『君達の年令よりも長く』那須野を研究なさっている松井先生の研究態度を見せていただき、この巡検での本当に貴重な体験だったと思う。(3年 柴田裕美)

木曾谷・富山巡検 (浅海先生)

昭和47年10月18日～10月20日

10月18日

8:20東京発こだまに乗車して11:05分名古屋に着く。それから名鉄に乗り換えて、犬山

遊園で下車。ここから数分間歩いて木曾川づたいに歩く。ここでは木曾川沿岸の段丘地形を観察。ここから鵜沼の駅まで歩いてそれから飛騨金山へ行く。又車窓から谷床谷壁の露頭がみられる。ここでは飛騨川沿岸の峡谷、段丘地形上昇の発達を観察。金山から30分近くで、下呂に到着。ここで一泊する。

10月19日

まだ、うす暗いうちに出発して下呂から約3時間くらい汽車に乗り猪谷に着く。ここで宮川と高原川との合流点付近の飛騨変成岩地帯、河床、谷壁、露頭を観察。笹津、東八尾付近では神通川沿岸の段丘を観察。バスに乗って速星付近に行く。ここでは神通川沿岸の扇状地の土地利用、主として耕作景観、用水路、集落景観を調べる。又ここは、イタイイタイ病発生地帯なので、そのききとり調査をおこなった。

10月20日

9:18に富山駅発の汽車に乗り40分くらいして黒部につく。ここからバスで黒部扇状地流水客土地域・黒部川河口付近・海岸砂丘・海岸侵食・黒部扇頂部隆起扇状地などを見て回る。そして2時頃黒部で解散して帰路についた。（2年 波多野久仁子）

高尾山巡検（浅井先生）

昭和47年7月7日～9日

一学期の授業が終わり、7月7日、高尾山への初めての巡検に出発する。調査項目は①大栗川の水質について、②多摩ニュータウンの建設、③多摩丘陵の地形と地質、④高尾山の地質と植生、⑤宗教山地としての高尾山、⑥国有林としての高尾山、⑦八王子盆地の歴史と生活等である。

7日朝10時、バスで八王子のセミナーハウスに向けて出発。バスが中央高速を通り八王子市にはいると、早速地図を広げて位置を確かめる。セミナーハウスには昼ごろ到着。その日は研究発表を主にし、セミナーハウス周辺の地質を見学したに終わった。8日、朝食をすませ、他学科の人より一足早く、我々はいよいよ高尾山に向かって出発。地図とフィールドノートを片手に、真夏の太陽のふりそそぐ山道をかきわけ、必死で歩いた。バス通りに出て昼すぎに高尾山の登山口に着く。高尾山自然博物館を見学した後、ケーブルに乗った。3～4人に分かれてアスマン通風温度計で観測をする。高尾の山道は、自然博物館の回路であり、眼下に開けるすばらしい展望とあいまって次